

くまもと防災コース



【写真提供：熊本城総合事務所】

わたしたちのまちは みんなで守る ～日頃のつながりが非常時の安心に～

熊本地震から8年経ち、時間の経過と共に「あの日」の記憶や私たちの防災意識は薄れがちになっています。

本講座では、熊本地震の教訓を後世に伝える「記憶の廻廊」の拠点施設と連携した内容に加え、避難所や自主防災組織運営のヒント、ペットを連れた避難のポイント等についても学びました。

第1回 熊本県防災センター（現地学習）

5月23日(木) ～防災リーダーの役割～

県危機管理防災課
防災センター展示・学習室運営員
歌丸 善久 先生

県広域防災拠点の防災センターで過去の自然災害による被害状況や、災害のメカニズム、防災の取組などの説明を受け、災害対策本部会議室や展示パネル等を見学した。



第2回 地域コミュニティの底力

5月30日(木) ～避難所運営のノウハウ～

NPO益城だいすきプロジェクト・きままに
代表理事
吉村 静代 先生

震度7が2度襲った益城町の避難所を行政主導から自主運営に移行し、被災町民を一人として取り残さないための工夫と行動がコミュニティを強めた体験を紹介。



第3回 オレンジビブスが安心の印

6月6日(木) ～井戸端会議が支える自主防災～

黒髪校区第4町内自治会 自主防災クラブ
会長
兼弘 誠 先生

熊本地震前から準備していた資材や設備が町民の避難に役立った。町内で浸透しているオレンジ色ビブス着用の防災クラブ員の活動が被災者に安心を与えたことを紹介。



第4回 そなえよう！みんなとペットの災害対策

6月13日(木) ～熊本地震の経験をふまえて～

九州医療科学大学
教授
加藤 謙介 先生

人もペットも「みんなが助かる防災・減災」のための行動を、実際の避難所運営での課題や知見を基に紹介。日頃からペットに対する準備と様々な避難方法についても解説。



第5回 震災ミュージアムでふり返る“あの時” ～熊本地震から得られた教訓とは～（現地学習）

6月20日(木)

熊本地震震災ミュージアムKIOUKU

熊本地震の被害に関するデータや展示物について説明を受けた後、敷地内の震災遺構である旧東海大学阿蘇校舎跡や地表地震断層を見学し、地震の脅威に触れた。



防災士
市村 孝広 先生



ガイド
植野 清 先生



▲熊本県防災センター
映像パネルで県内の
マグニチュード値を確認
する



▲震災ミュージアムKIOUKU
ジオラマで各地の断層
の場所と被害状況の説明を聞く

受講生の感想

- ・熊本地震から8年、またいろいろと思い出して「教訓」として考えさせられました。震災は人ごとではないと改めて思いました。
- ・現地学習は大変勉強になりました。改めて防災を考える事になりました。しだいに熊本地震のことを忘れかけていました。
- ・南海トラフ地震に向け備蓄品を備えたいと思います。